主題：―最初の殉教者ステパノ。―
目標：―ステパノのように、いつも**主**イエスを見上げ、御霊に満たされて歩むことを求める者となるー

2020/11/25

新約聖書の人物㉔

使徒 6:1～15 p243
7:48～60

「満たされた人 ステパノ」

ステパノの名を耳にするとき、私たちの心に浮かぶのは、殉教者の姿である。

しかしその殉教は結果であって、そこには彼を愛し、用いられる深い神の御旨がある。

教会はキリストの体である。当然、キリストが迫害されたように教会は迫害されるのである。ペンテコステの聖霊降臨により、夥(おびただ)しい人々が救われて教会に加わる一方で、相容れない者、世を愛する者は反対してねたみ、教会に敵対し、キリストに対する憎しみを増していく。

聖霊の知恵に満たされたステパノは、聖書から鋭く**主**イエスを十字架につけた罪を指摘した。学者たちは反論も､口を挟む事もできなかった。彼らの憎しみは、暴力に変わり、集団的ヒステリーによる石打ちの殺人という形で表れた。これは彼が失敗したからではない。彼らの心が頑なである以上、必然的であった。神の恵みに輝いたステパノは使命を全うしたのである。

人には神様から与えられた命の長さがある。また、神様から与えられた使命がある。人間の本当の幸いは、生かされている間に、その使命に気づき、生きることではないだろうか。

その意味で、ステパノほど幸いな人はいない。ステパノは力が足りないために殺されたのではない。天の軍勢に護衛されながら天に凱旋したのである。地上の怒号の声も、天の凱歌に飲み込まれて、ステパノの耳には響かない。痛みすら感じなかったのではないだろうか。それは、それを遙かに超える全宇宙の全権を握られる**主**の御姿が、彼に見えていたからである。

その結果､宣教は拡大され、次々に人が救われていったのである。またこの後教会は、現在に至るまで迫害の歴史を辿り、多くの殉教者を出した。そして今も、命をかける**主**の証し人には、ステパノ同様、**主**は栄光の御姿を見せて下さり、必ず、勝利を与えて下さるのである。

[聖書の学び]

Ⅰ、選ばれた七人 (使徒6：1～7)

1、次第に大きくなったエルサレム教会で問題が生じました。教会はこの問題をどのように解決したのでしょうか。 (6:1～6)

（1） 役割を分ける (6:3､4)

（2）このための奉仕者(執事)を７人選んだ。 (6:3～5)

①その基準

②選ばれた７人

＊リベルテン…リベルテンとは自由にされた人の意味
の会堂　　ローマで奴隷にされていた人々が解放され自国に戻り、自分たちで作った会堂。

Ⅱ、御霊に満たされたステパノ(使徒6:8～7:60)

1、知恵に満たされたステパノ(6:8～7:53)

①執事としての能力。(使徒6:7～8 参照；出エジ31:1～6 旧p156＝神の霊によるベザレルの業)

②詰問されて即座に返答をする彼の聖書知識の広さと精密さ。(6:8～7:53)

③神の子を十字架につけた大罪を指摘し、彼らの良心に迫った。 (7:51～53)

２、力に満たされたステパノ(使徒7:51～53) (参照ミカ3:8旧p1584)
　聖霊の力と権威に満ちた彼の返答‥‥‥敵対する者たちを怒らせた。(7:54)

３、信仰に満たされたステパノ
　信仰により、ステパノに見えたもの(7:55､56)

４、恵みに満たされたステパノ
　①怒りに満ちた人々の中で、ステパノは**主**を呼んだ。(7:59)
　②大声で最後に叫んだこと。(7:60)

Ⅲ、ステパノにより、教会に与えられたもの

１、宣教の拡大
２、教会の模範と証し人としての標準
３、迫害者サウロの魂に刻み付けられた、輝くステパノの姿。

＊ ディスカッション　（心を開いて話し合ってみましょう）

Q. **今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。**